

医学部医学科整形外科学講座

研究テーマ：人為的腰椎椎間板ヘルニア退縮誘導による新規治療法開発

キーワード：椎間板ヘルニア、マクロファージ、非観血的治療、自然退縮

予測される技術成果・効果：

切らずに治せる椎間板ヘルニアの治療
確立

事業化が期待できる分野：

椎間板ヘルニア塊自己退縮誘導のため
の薬剤開発

概要 脱出ヘルニア塊局所へのMIP-1 α 投与により循環 macrophage を局所へと動員し、ヘルニア塊を自己退縮へと誘導する。椎間板ヘルニア動物モデルを用いての、MIP-1 α による局所への循環 macrophage 動員、ヘルニア退縮の効果と安全性との確認試験を行う。より有効なヘルニア塊退縮誘導のためには、MIP-1 α やヘルニア退縮過程におけるマトリックス分解に必須である中性域作用酵素などの発現を検討し、ヘルニア塊退縮のメカニズム解明の必要性がある。

写真



ふりがな

名前 森 幹士

職名 助教

主な経歴：平成7年滋賀医科大学卒業、平成18年ナント大学（フランス）客員教授。

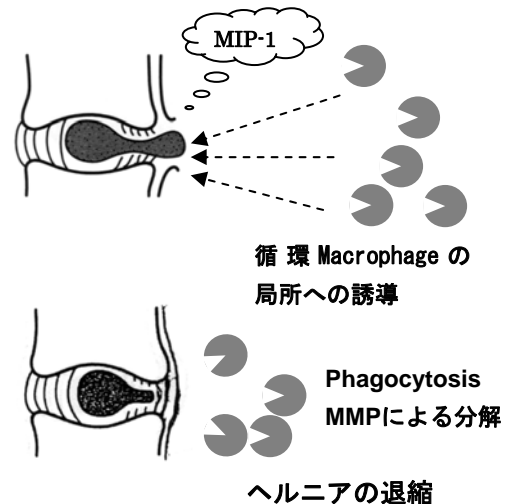
所属学会：日本整形外科学会、日本脊椎脊髄病学会、日本リウマチ学会、European Calcified Tissue Society など

■ 内容

腰椎椎間板ヘルニアの治療において、保存療法に抵抗する疼痛や神経学的脱落症状のために手術加療を必要とする患者は絶えることがありません。

椎間板ヘルニアを「切らずに治したい」という患者のニーズは高く、椎間板内酵素注入療法や大きな経済的な負担を強いられるレーザー照射などによる治療を試すものは後を絶ちません。しかし、これらの治療法には神経損傷などの合併症があること、適応となるヘルニアのタイプに限られることから問題解決とは言えません。そこで、「切らずに治したい」という患者のニーズに応え、より安全で、医療費の軽減にもつながる椎間板ヘルニアに対する新しい治療法の確立が望まれています。

本研究は、ヘルニア自己退縮に重要な役割を果たす macrophage を局所へと効率よく誘導し、ヘルニアの自己退縮を人為的に誘導することにより、より安全に「切らずに治せる」椎間板ヘルニアの治療確立を目指します。



特許・共同研究等の状況	
希望する連携形態	共同研究 受託研究 その他
希望提携業種	薬剤製造企業等